アンバサダーライダー・髙田茉莉亜と佐々紫苑の

欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2019 年 1 月号掲載

明松寺馬事公苑所属

◆佐々紫苑
（さっさ・しおん）
1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。大学では4年連続で学業優秀賞を受賞。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

馬耳蘭風
―オランダ奮闘記―

佐々紫苑
Shion Sassa

海外で行われるクロスカントリー競技で飛越する障害物（フェンス）は、スケールが違います。四角い競技場内で行われる競技とは異なり、野外コースをさっそうと駆け抜けていくこの競技は、各所にここぞとばかりにその土地柄、お国柄が表れたフェンスが置かれています。ロンドンではバッキンガム宮殿、中国には万里の長城などをかたどったものがあり、ミニチュアというよりも、そのまま人が住めるのではと思えるほど大きくて立派なフェンスが設置されます。

以前、りんごがたくさん敷き詰められたかわいらしいフェンスが作られたことがあったのですが、そのときは前日のコースウォークの際に選手たちが次々とりんごを手に取りかじりながら進んでいったせいで、夕方には1個も残っていなかったというシーンを見たことがあります。あのりんごは本番までに元通りになったのでしょうか…。

最近オランダの大会で驚いたのが、まるで八百屋の店先のようにズッキーニやピーマンなど本物の野菜をこれでもかと山のように積み上げたフェンスです。分速500㍍以上のスピードで走り抜ける馬たちがこの野菜の誘惑に立ち止まることはありませんが、もしかしたら競技終了後は馬へのご褒美になるのかな、と勝手に想像してしまいました。東京オリンピックではどんな工夫を凝らしたフェンスが作られるのか、今から楽しみです。

八百屋さん？　いえ、立派なフェンスです！（本人提供）

Let's enjoy Dressage

髙田茉莉亜
Maria Takada

アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆髙田茉莉亜
（たかだ・まりあ）
1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

週刊ギャロップをご愛読の皆さん、明けましておめでとうございます。今年もドイツから、馬場馬術に関する様々なことをリポートしていきたいと思います。よろしくお願いします！

さて、前回に引き続き9月に行ってきた世界馬術選手権の話題です。会場で、鞍をつけずに馬に乗っている選手がいました。出場した2競技（団体戦と個人戦）の両方で金メダルを獲得した、馬場馬術のドイツ代表Isabell Werth選手（写真）です。

たまにホームでのトレーニングの合間に頭絡や鞍なしで馬に乗る選手はSNSでも見かけますが、ホーム以外のいつもと違う環境、つまり試合会場で実際に目にしたのは初めてで、私だけではなく世界中から集まった選手や関係者の方たちが驚いていました。

試合会場での馬はいつにも増して警戒心も高まり、神経質になります。Werth選手が鞍なしで乗っていたのは、人馬一体の迫力満点の演技を披露した翌日のことでした。マックスまでテンションを上げた翌日にそんなことができるのは、お互いに信頼し合っている人馬だからこそ。このシーンに金メダルの演技よりも感動してしまいました。

※Dressage＝馬場馬術

@privat